

# 寄附の進化と可能性

教育・文化・スポーツ・科学技術の発展  
と共感性の連鎖

日本ファンドレイジング協会代表理事

鵜尾雅隆



## 日本ファンドレイジング協会

寄附・社会的な投資が進む社会を実現するため、認定ファンドレイザー資格制度等のファンドレイザーの育成、寄附教育、遺贈寄付推進などに取り組む。

組織横断的なファンドレイザーの日本最大のネットワークで大学チャプターは約150以上の大学から約200名がメンバーに参加。大学分野の認証ファンドレイザー研修を2022年4月から開始



## 鵜尾雅隆 (UO MASATAKA)

JICA、外務省、米国NPOを経て日本ファンドレイジング協会創設・代表理事。至善館大学院特任教授・評議員、民間公益活動連携機構 (JANPIA) 理事、PwC財団選考委員長なども務める。

「寄付しようと思ったら読む本」(日経新聞)、「ファンドレイジングは社会を変える」(三一書房)、Global Fundraising (Wiley) など

# 子どもの貧困

ホームレス

差別

障がい者支援

限界集落

いじめ

病児保育

DV

ハラスメント

感染症

不登校

うつ

産後うつ

人権問題

医療費高騰

LGBT

低い自己肯定感

地域経済の地盤沈下

介護難民

ひきこもり

難民

飢餓

孤独死

気候変動

紛争

カーボンニュートラル

# 寄附とは何か

# ファンドレイジングとは何か

ボランティアとは、誰かのために  
自分の時間や知恵を使う行為

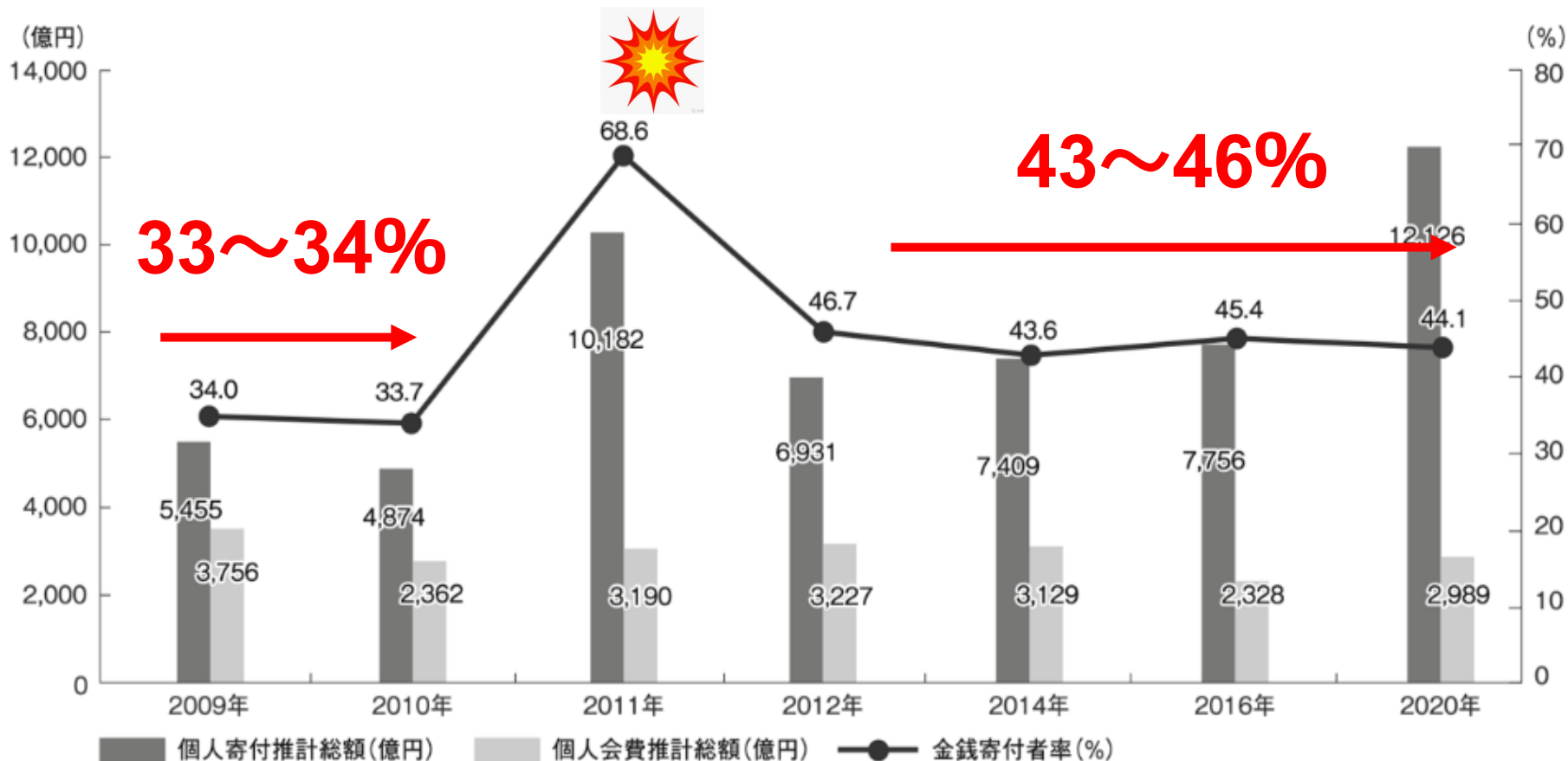
寄附とは、

**信じて、託す行為**

ファンドレイジングとは、何か？

共感 × 解決策 = 社会を変えろ

図1-5 個人寄付推計総額・個人会費推計総額・金銭寄付者率の推移



注：2011年は震災関係の寄付(5,000億円)を含み、金銭寄付者率も震災関係以外の寄付者率(29.4%)を含む。  
2012年以降、本調査は隔年実施、また2016年以降は4年に一度実施へと変更になった。

遺贈寄付の急拡大

富裕層の社会貢献が進む

企業のSDGへの関心と貢献

SDG教育、金融教育＋寄附教育



大学・研究機関の未来を寄付で発展させるための

# 戦略ロードマップ

～世代を超えて 変わらないものを伝えるために～

Ver.0.1

2022年2月15日

ロードマップ全文

<https://jfra.jp/news/39683>

専門認証ファンドレイザー研修(大学)

<https://jfra.jp/news/41107>

# 2. 戦略ロードマップ (1/2)



個々の大学・研究機関

UFRer 職の確立

## 2. 戦略ロードマップ (2/2)

| カテゴリ               | テーマ                                      | 2022年度～2026年度   | 2027年度以降         | 目標  |
|--------------------|--|---|------------------|---|
| 機関間の連携・<br>情報共有    | <b>A. 大学・研究機関の連携推進&amp;ロードマップ実行部隊の設立</b> | A①連携の必要性、連携組織で行うことの機運を醸成する<br>A②FR推進コンソーシアムをつくる（法人・ファンドレイザーそれぞれの連携組織）<br>A③国公立大、研究独法各団体（国大協等）と対話を開始する<br>A④国内外の好事例や現状の共有を進めるための情報プラットフォームを作る<br>A⑤ 国への各種提言を行う   | <b>UFRer職の確立</b> | ロードマップに沿って歩む<br>・複数の機関が繋がることで、FRの意識がさらに向上する<br>・大学ファンドレイザーが専門職として定着する                           |
| 行政（国）              | <b>B. 寄附しやすい・寄附を受けやすい仕組みづくり</b>          | B①国の予算措置を前提にコンソーシアム設立を検討する<br>B②UFRer職の検討を開始する<br>B③UFRerのスキル標準を策定し、認定制度を設ける<br>B④UFRer職を構築・導入する<br>B④専任FRer雇用の支援制度を作る<br>B⑤税制を見直し、大学・研究機関への寄附を推進する<br>B⑥会計基準を見直し、大学・研究機関への寄附に見える化する<br>B⑦寄附に関する政策研究・学術研究を推進する  |                  | ・UFRer制度ができる<br>・大学・研究機関のFRerの人数が増加する<br>・寄附活動がやりやすくなる<br>・寄附政策研究・フィランソロピーの学術的研究に取り組む機関・研究者が増える |
| NPO・地域社会・<br>地方自治体 | <b>C. 組織間の繋がり<br/>の強化</b>                | C①類似するミッションの実現を模索するネットワークを構築する<br>C②地域と大学・研究機関が一体となって社会課題の解決を具現化する<br>C③ふるさと納税の項目に、大学・研究機関への寄附を加える  |                  | ・大学・研究機関との対話が進み、協働が生まれる   |
| 企業・財団              | <b>D. CSR/CSVに<br/>大学・研究機関が<br/>参加</b>   | D①寄附講座に加え純粋な寄附のインパクトに注目が集まる<br>D②マッチング寄附を実施する企業が増える<br>D③大学・研究機関との共創によりインパクト投資が加速する   |                  | ・大学・研究機関への寄附が企業活動として一般的になる  |
| JFRA他育成機関          | <b>E. UFRerの育成</b>                       | E①専門課程の開設・充実により、大学ファンドレイザーの専門性向上を図る   |                  | ・大学ファンドレイザーの育成が進む   |
| 全体・<br>社会情勢の変化     | <b>F. 大学・研究機関の寄附文化の醸成</b>                | F①大学ファンド制度導入により研究力が強化される<br>F②地方大学への「総合振興パッケージ」で研究力が強化される<br>F③地域における大学の存在感が増す<br>F④母校や特定の研究に寄附できる認識が広まる<br>F⑤寄附先として教育研究機関の定着が進む⇒インパクトへの注目が高まる<br>F⑥学術クラウドファンディングが増加する<br>F⑦学術研究がSDGsの実現に貢献・注目される<br>F⑧社会貢献人材の育成に対する要求が高まる<br>F⑨企業からの寄附が増える<br>F⑩現金以外の金融資産（株など）による寄附が増える<br>F⑪遺贈寄附の申込が増える |                  | ・大学・研究機関への寄附がもたらす社会的インパクトを理解する人が増える<br>・大学・研究機関が寄附文化醸成を牽引する                                     |

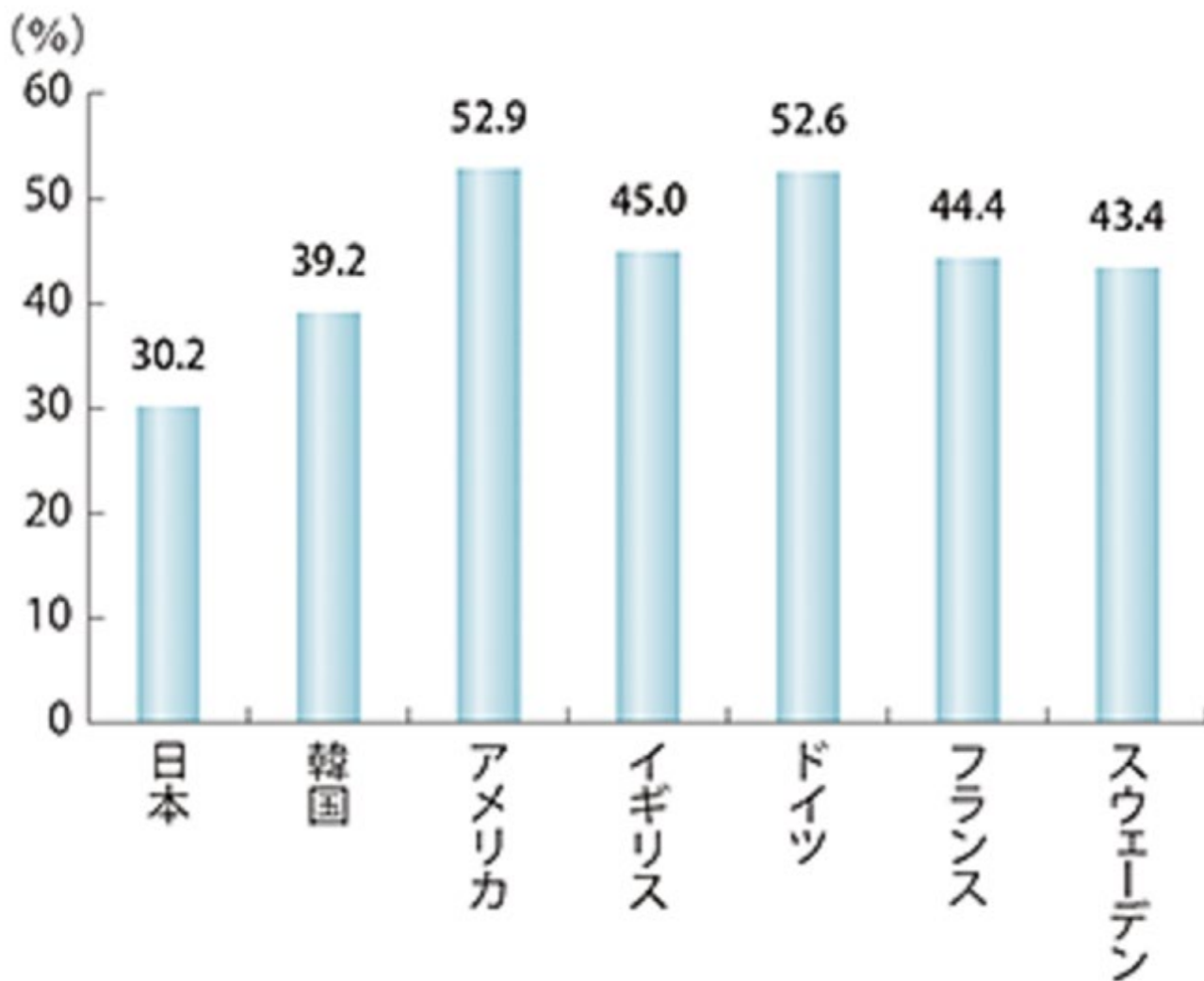
# 研修体系

# 寄附の本質的価値

共感の連鎖による無限電池

イノベーションの源

子ども達が自分は社会を変えられると信じる

**図表7****社会現象が変えられるかもしれない**

我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成25年度・内閣府)